



あしあと
利用者ものがたり。
久志光子さん編

きびしさの先に見えた愛情

(キャリアウーマン編)



キャリアウーマン時代の光子さん。

とても教育にきびしい家庭で育った光子さん。中学校を卒業してすぐ、家族の紹介で「にしんマーケット」という大きな会社に就職。当時は親戚の家に住み込みさせてもらって、職場に通っていました。精いっぱいはいたらき、楽しみにしていたお給料は光子さんの手に入ることなくヤンバルに住む両親のもとへ…。大変な思いもしましたが、しあわせなこともたくさんありました。「にしんマーケット」では、社会人としてのマナーから、仕事のやり方を教わりました。

仕事にも慣れ、やりがいを感じていたある日。にしんマーケットのオーナーの翁長さんが、ある男性を紹介してくれました。

津堅島出身のその方は、電気関係の会社に勤めるとても誠実な人。ふたりはすぐに意気投合し、やがて恋に落ちました。

その彼こそ、のちの人生を共にすることとなるご主人、清康さんです。「仕事が終わったら、まっすぐ家に帰ってきたよ。毎日4時15分には家に着くほど、本当にまじめな人でした。」と当時を思い出しながら話してくれました。そのころ、光子さんはコザショッピングセンターに転職しており、ここでも遅刻や欠勤することなく働きました。仕事をするのが好きで、皆勤賞をもらったそうです。とても優秀で働き者だった光子さんは会社からA評価をもらい、慰安旅行まで連れていってもらったそうです。



なつかしき青春時代

当時をなつかしむ光子さんにたずねました。「15歳で親元を離れてよかったと思いますか?」「きびしく育てられたけど、今の私があるのは、両親のおかげ。とても感謝してますよ」と光子さん。もしかすると、きびしい教育は両親の最大の愛情だったのかも知れませんね。



むーとうやー産シークワサー



いつも手伝ってくれます。(コロナ拡大前の写真です)

文：佐和田裕也

おとなの寺小屋
うむいぬうふやー

あんない
かんない

うふやーのうむい。

うむいぬうふやーの感謝祭は10月21日におこなわれました。今年の春以降、利用者さんは、この日に向けて準備を進めてきました。

うふやーの利用者さんの演目は「春が来た」「富士の山」の歌体操！昔からなじみのある歌にうふやー生徒の美声が響きわたりました。ちからいっぱい体を動かして毎日練習をがんばりました。時には…「私は書道をしてみよう！！昔は書道をしていたんだよ」と進んでプログラムを書いてくれたのは和子さん。「緑は多き桃原の花〜♪」と、うむいぬ校歌を口ずさみながら手先の器用な光子さん。



毎日、練習に励みました。

シゲさんは花笠作りに取り組みます！「この花びらを広げるのが難しいね…」「この花可愛いねえ〜どこに花を付けたらキレイ？」と頑張る横では…出来上がった花笠をかぶり全一さんが笑顔で踊り出しパーラソウを鳴らし始めました。その音に合わせて皆でカチャーシーを踊り大盛り上がり！今年の感謝祭は例年通りではないけれどみんなで楽しい時間を共に過ごしたいと思う「うふやーのシンカヌチャー」でした！



プログラムも利用者さん手作り。

待望の校歌完成！

みなさんは、小学校の校歌はおぼえていますか？幼い頃におぼえた曲って何年たってもおぼえていますよね。その校歌が、うむいぬうふやーにもできました！うふやーは「おとなの寺小屋」です。だから「読み書きそろばん」という歌詞なんです。かるやかな歌声を聞きにきてくださいね。♪

緑は多し 桃原の花
食べて 笑って ゆんたくさ
わたしの人生 繰り返る
朝を迎える 今日もうれしい
いもを食べてた子供時代
あの日があるから今がある
勉強 あたまの ぬちぐすい
100歳目指して 読み書きそろばん
言葉にのせて とどけたしの くむい
わたしたちの母校 ここはうむいぬうふやー

作詞：村上 透
作曲：島袋辰也